



鼎談の収録は、密を避ける為事前に出演者とスタッフのみの少人数で実施しました。その濃厚な内容を40分間に編集し、人気ラッパーである表現者・志人（シビット）氏の楽曲『YUYAKU』をエンディング曲に収録するなど新たな試みも行い、9月5日、オンライン会議システム「Zoom」にて映像配信、映像視聴後には登壇者と参加者40名の質疑応答・交流の時間を設けました。参加者は宗教者だけでなく会社員・大学教員・音楽家・主婦・フリーランス等様々な立場、かつ20～80代の幅広い年齢層の方が集まり、「踊り念仏は何故佐久で始まったのか」「熊野神が山伏の装束である理由は」といった様々な質問が相次ぎ、終了後のアンケートでも企画への好意的な意見や感想が多数寄せられ、大きな手応えを感じました。

寺院でのオンラインイベントでは、打ち合わせと配信テスト・役割分担・機材や当日の流れの確認・配信トラブルへの対処など、有参拝者法要以上の入念な準備と対策が肝要で、規模や内容によってはプロの技術を借りなければなりません。自宅で出席・参拝・交流が可能な新たな生活スタイルにおいて、日々配信されるYouTube法話や法要ライブ中継には一定の需要が見込まれ、より「伝わる」為の方便の一つとして有効と思われる。

尚、本プロジェクトは神戸市「令和3年度まちの再生・活性化に寄与する文化芸術創造支援助成事業」に選出され、現在も今後の展開を鋭意企画中です。神戸市民のみならず全国の読者各位のご参加、心よりお待ちしております。

※「聖絵をひらく」アーカイブ映像は近日中に有料配信予定、詳細は満福寺までお問合せ下さい。

時宗 梅松山 天寿院 **満福寺** 兵庫県神戸市兵庫区東柳原町1-13
<https://www.manpukuji.org> TEL. 078-681-4041

コロナ禍での寺院活動について ~踊り念仏プロジェクト“YUYAKU”オンラインイベント~

第23教区満福寺 岩田尚登（プロジェクト発起人）

「YUYAKU プロジェクト」は“踊躍歓喜の本質とは何か”を探究すべく、宗祖入寂の地・神戸市兵庫区内の満福寺を拠点に活動する新たなコミュニティです。

踊り念仏は風流踊など日本芸能民俗文化の源流とも言われており、歌舞音曲と言葉は“YUYAKU”の2本の大きな柱です。高い感性を持つアーティストと市民が僧侶と共に学び合い協力しながら、法悦の踊り念仏と豊穰な言葉の世界の融合、そこから生まれるつながりの場づくりを目指しています。しかし始動後程なく、その深奥なテーマの実現を困難にしたのがコロナ禍でした。そこで場を伽藍からオンライン上へ移し、一遍聖絵をテキストに祈りと芸能の関係史を紐解く講座「YUYAKU ~おどりとことば~トークセッション Vol.1 聖絵をひらく」の配信を企画。登壇者に仏教学者でもある真光寺住職・長島尚道足下、文芸評論家としてもご活躍の安藤礼二氏（多摩美術大学教授）をお迎えし、現代美術作家であるやなぎみわ氏（YUYAKU プロジェクト総合ディレクター）司会の下、鼎談を開催しました。

